

「イエス・キリストという土台の上に」

遠藤尚幸（伊勢崎教会 伝道師）

主の御名を賛美致します。

初めに、私たち日本基督教団伊勢崎教会に対しまして、教団、教区、地区をはじめとして多くの方々に祈り、励ましを頂き、心より感謝申し上げます。特に去る6月16日（日）に行われました伝道師就任式に際しましては、各方面の皆様よりお祝いとお祈りを頂き深く感謝しております。教会員一同喜びに満ち溢れる時となりました。

伊勢崎教会は、東日本大震災によって被災した会堂を、今年の11月に解体式を執り行い、取り壊しました。教会にとって、74年間、伊勢崎の地に建ち続けた教会堂を取り壊す事は、大きな痛みを経験する出来事でした。しかし、今年度、私たちは、再びこの痛みの中から、神様の恵みを受け新しい幻が与えられ、新会堂の建築に向けて歩み始めることが出来ました。諸教会の皆様には、日本基督教団東日本大震災救援募金を通してご支援を頂き心より感謝申し上げます。

去る7月1日（月）に起工式を行い、具体的に会堂建築の工事が始まっています。7月中には土台が完成し、会堂の基礎工事が終わりました。8月下旬には建て方が始まり、9月には建屋が建ち上がりました。そして、10月には外壁、屋根の取り付けが始まり、先日屋根に十字架が付きました。10月下旬現在、外壁と屋根がほぼ完成しつつあります。これから11月は内装に移ります。新会堂の竣工予定は11月下旬、献堂式は来春頃を予定しています。このように、牧師館の前では、一日一日、新会堂が目に見える形で現れてきています。

伊勢崎教会は、東日本大震災を経て会堂が使えなくなってから約2年7ヶ月間、教育館であるシオン館で礼拝を守り続けてきました。その間無牧の期間もあり、多くの教職の皆様にも支えられてきました。無牧、そして会堂の解体、そのような時を経て、今私たち伊勢崎教会は、伝道の希望に燃える教会として新たに歩みを始めようとしています。今後とも、教団、教区、地区の諸教会の皆様との主にある交わりの中で、主イエス・キリストの福音の伝道に励んで参ります。あと一ヶ月で新しい会堂が与えられます。今この時に、私たちはもう一度、私たちの教会の立つ土台を見つめさせられています。「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません（一コリント3：11）」。この土台の上に私たちは今日も立たされている。その恵みに気づかされます。



日本基督教団東日本大震災救援募金

*現在の募金状況（2013.10.21現在）

¥ 615,152,025

「東日本大震災救援募金」

¥ 255,553,946

「東日本大震災海外献金プロジェクト」

新しい歌を主に向かって歌え

加藤 久幸（水海道教会 牧師）

2011年3月11日午後2時45分、東日本関東大震災が発生し、水海道の街（茨城県常総市）も激しく揺れました。水海道教会学園（二葉幼稚園&育ちサポートセンター）の園児の安全を確保しながら、その後、つくばクリスチャンセンターとそこを利用している茨城 YMCA の安否確認に向かいました。翌日、茨城地区内の諸教会伝道所と連絡が取れないので、飯塚拓也教区副議長（当時）が出かけて訪問し、水海道教会が連絡の窓口となり、安否確認を行いました。茨城地区内の被害も大きく、翌日予定されていた茨城地区総会は、2週間後の3月27日に延期を決定しました。

こうして始まった被災と復興（支援）の活動ですが、水海道教会は2011年4月8日に松下充孝氏の簡易診断を受けました。教会・牧師館・学園のいずれの建物も構造的欠損は見られないものの、玄関・駐車場の地盤沈下、建物の亀裂多数（一部崩壊の可能性あり）、天井の撓み、塀の損傷等がありました。

教会では、危険箇所の復旧工事以外は、懸案のバリアフリーの工事との兼ね合いで、検討することになりました。創立110周年（2009年）記念事業で、会堂屋根修理・空調設備改修、学園の保育施設の新築を行ってきていましたので、資金繰りに課題があり、なかなか成案をえることができませんでした。しかし、会堂の階段・段差などに利用者の困難が高まり、10年位先のことと考えていた取り組みを、前倒しで着手することになりました。この間、今回の改修工事（復旧工事を含む）は基本的な事項にのみ留めるという方針を立て、教会基本財産を組み替えて会堂整備基金を増額するとともに、会員に献金を募り、計画は実行されました。礼拝出席が30名前後で、その内80歳を超える者が約10名の教会にとっては、この事業（工事費1604万円）は大きなことでした。

しかし、それ以上に大きなことは、次のことです。私たちの教会・学園が多くの方々に覚えられ支えられていることを知り、牧師を被災支援委員会に送り、教会・学園からもボランティアに参加し、救援募金へ参与すること、呼びかけに応じて支援物資などを送ることなど、私たちにもできることを取り組んできたことです。心碎かれることも多くありましたが、支えられ、支えつつ、共に歩もうとした2年半の歩みでした。このような歩みがなければ、私たちの改修工事は実現しなかったと想います。今年9月15日、奇しくも、長寿祝福礼拝の日に、改修完成感謝会が行われました。そこにはとても印象深い出来事が溢れていました。

学園のことも一言触れておきます。危険箇所の復旧工事、除染活動と空調設備の新設などは行いましたが、園舎の経年劣化もあり、時間とともに亀裂などが大きくなっているように感じます。これらの対応は、今後の課題です。

私たちのようにそれほど被災が大きくなかった教会・学園にあっても、復興は始まったところであり、なお続くという印象を抱きます。今までもそうでしたが、難しい判断と取り組みが今後とも続いていくのでしょうか。水海道教会の2013年度主題聖句は「新しい歌を主に向かって歌え」（詩編98編1節）です。震災後の教会、幼児施設がどうあるべきかを祈り求めつつ、教会と学園の歩みを進めていきます。皆さまのお祈りとご支援に感謝いたします。

アジア学院近況報告

大津 健一（アジア学院 校長）

アジア学院 40 周年記念式を創立記念日の 9 月 16 日にコイノニアハウスで開催し、また当日午後から翌日までの 2 日間に亘って海外からの卒業生約 50 名を迎えてシンポジウムを開くことができました。2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所によって起こされた放射能汚染に直面し、この場所でアジア学院が継続できるかどうかの問題に直面したあの当時のことを考えると、本年 9 月 16 日に多くの卒業生や当日出席の皆さまと共に創立 40 周年をお祝いし、シンポジウムを開催出来たことは私たちの大きな喜びでした。

創立 40 周年を迎えるにあたって理事会では、40 周年記念式は 40 年を導いてくださった神への感謝のときであり、アジア学院の働きを支えてくださった方々への感謝、特に東日本大震災後のアジア学院の最も困難なときを支えてくださった皆様への感謝のときとすることを確認しました。この場をお借りしまして、1973 年の設立から今日までの 40 年間を導いてくださった神に感謝すると共に、アジア学院のために祈り、お支え下さった教会の皆様や、多くの方々に感謝を申し上げたいと願っています。

アジア学院では東日本大震災後、継続してキャンパス内の土壌や農作物の放射能汚染問題に取り組むと共に、危険を指摘された学校施設の建替えなどの震災復興事業に取り組んできました。現在アジア学院の農作物の放射能線量は比較的低い線量を示しています。本年 9 月に収穫した籾殻付きの米は 4 ベクレル、大方の野菜は 10 ベクレル以下の数値となっています。アジア学院生産の農作物については今後とも継続して放射線量を計測して推移を見守っていきたいと考えています。

震災後の災害復興事業については現在も継続中です。本年 7 月 18 日に男子寮及び豚舎の新築工事を完了し、奉献式を行いました。また旧コイノニアハウスの階下にあったチャペルが旧コイノニアハウスの取り壊しによってなくなり、チャペルの早期建築の必要が話し合われてきましたが、いよいよ 11 月中には新チャペル建築に着手したいと考えています。チャペル建築については日本基督教団よりすでに受領した 2000 万円の指定寄付金及びその他の教会から頂いた寄付金を基金に建築を開始する予定です。多民族多文化の人々が集るアジア学院にふさわしい霊的な場所としてのチャペルを建築したいと願っています。

アジア学院のために引き続き教区の皆様のお祈りとお支えをお願い申し上げます。

写真：二棟建の新男子寮

